



笑顔いっぱい かがやく入谷っ子

生き物と向き合う姿

中休み、子供たちが校庭から昇降口に向かう途中、様々な学年が集まって話をしている姿が目に入りました。「どうしたの。」と声をかけると、「幼虫がいる。」と口々に答えてくれました。見ると幼虫が精一杯、体を動かし、安全な場所を探しているようでした。見守っていると、高学年の子供がそばにある石に何度も何度も幼虫をのせ始めました。「土のある所に連れて行く。」と言いながら、なんとか石の上へのせた幼虫を花壇の所まで運び、さらに土を掘り、その中に幼虫を入れてそっと土をかけていました。子供たちのほっとした表情の中に優しい眼差しがあり、何とも言えない爽やかな空気が流れる場面がありました。

そばには、カナヘビを捕まえて手に持っている低学年の姿があり、高学年の子供たちは、「逃がしてあげたら。」と声をかけていました。低学年の子供は、手にしたカナヘビを愛おしそうにじっと見て、「かごに入れて飼うんだよ。」と話していました。

生き物を飼って世話をしていきたいという低学年の子供の思いがありました。そして、今まで、捕まえた生き物の世話をしながらも、うまく世話ができなかった命と向き合わざるを得なかった経験から学んでいる高学年の子供たちの思いがありました。

身近にある命が、発達段階に応じて、子供たちの心を育てていくことを目の当たりにしました。私たちに、たくさんのことを教えてくれる、小さな命に感謝したいと思います。

天国からの手紙

天国のお母様から手紙が毎年届くというネットニュースの記事が目に入りました。5歳でお母様を病気で亡くし、ファミリーホームで暮らす17歳の高校3年生の梨菜さんに、今年で12回目の手紙が届いたという記事でした。6歳になった誕生日から20歳になるまで、お母様から託された手紙を後見人である弁護士が、毎年届けるというものでした。

世界で一番 愛する梨菜

お母さんにとって一番かわいい梨菜
頑固で少しやんちゃだけど 大好きな
梨菜 無事に10才をむかえてくれて
ありがとう。いつも天国から見て
いますからね。

天国のお母さんより

梨菜さんは、自分の境遇に悩んだ時、学校生活で辛い思いをした時に、お母様からの手紙を支えにしたとのことでした。そして、今は、ホームに保護されなければならない子供たちの力になろうと児童福祉士を目指しているとのことでした。

お母様が思いを込めて届けた言葉が、梨菜さんを支え続けてきたこと、さらに前を向き進んでいく大きな力になっているということに胸が熱くなりました。

人にまっすぐな道に進む強さを与え、幸せに導いてくれる、無条件の愛の偉大さ、尊さに改めて気づかされました。そして、生かされていることに感謝し、自分のできる最善を考えて毎日を過ごしていくことの大切さを示していただいた記事でした。